

Soon before SR's death
what he was doing
Anand's notes

鎌市俊隆老師の海中の苦難日記

昭和34.5.22日 春巻き6をとして海岸10年目に亘り宇門漁港のため心血を傾げて石垣島にて
基礎工事、土上げ、川の手堀、港手造り等、個人社会に洋漁生活と海洋捕獲に
努力、船頭タカラの西海岸に海心寺を開き修業道場を作らる。又スコト大喜薩摩港を経て
45歳には英女で初心と稱する洋漁生活を始める。又本島化には道場と島に現在2000を越
える漁業者を擁する。この功により昭和12月11日権大教師となり萬葉衣の筆典を授けた。

春巻寺 36年個人組織の洋セラーを作り春巻寺を中心として

月 AM 5:45 ~ 1:00 底漁 PM 4:30 ~ 6:30 底漁

水 PM 7:30 ~ 9:00 浮遊魚
土 AM 5:45 ~ 11:00 底漁 PM 4:30 ~ 6:30 底漁 } 70人を対応

日 AM 8:00 ~ 9:00 底漁 9:00 ~ 10:00 浮遊魚 PM 1:00 ~ 2:00 10人を対応して浮遊魚

四月 フルムス 大 AM 6:00 ~ 7:30 ~ 8:30 PM 7:30 ~ 8:30 ~ 9:00 浮遊魚 = 30人を対応

11月 ウレーフ AM 4:45 ~ 6:45 ~ 20:00 浮遊魚 10人を対応

行動は個人的行動
直接口上へ入ることで大方
正規以上となり、ありと
あらゆる行動

第一回 海中、底漁と浮遊此の時は以上的に云々

第二回 " 昭和41年 大雨の方丈の退山、包一方丈の若山城、他の時標準すると云々した。
仕事の待つていて大いに活動しなければならないことになると痛めていた

9:00未だ朝まだ地方(クニヒン、ニッポン、オーストラリア)漁業行動、サザナリ達
等の問題該当事項のうえだ、たと風景

洋セラー(大喜薩摩港)における日程

①

鉢木俊隆1988年中の事蹟略記

昭和34年5月エエロ新進として同年10月に至り室内装飾のため心血を注ぎ石塀園たる基礎工事を上げ、以て新進を定年退任。爾来、個人社会にて講話と対談指導等に努力。加賀ダムの出来事に悔心をも向き、修業道場を作り他システムに大喜び評議会を開催。45年12月英文で初版と題する『対談』出版。今未名地にて修業道場を営む現立2000万円を達成。著書を複数まとめてこの功により昭和44年12月11日権大蔵大臣より「黄風衣の薦め」に賜されたと称され執事としています。昭和38年秋に回降として町内会の振興を宣告します。

昭和36年個人組織の洋センターを後継者を中心として	月、火、木、金の朝、夕の各1回は3月連続	
	水の夜1回月1講義	
	土、祝へ10時～座禅及茶会（休日）	70人
	日、午後座禅、海賊各1回向	
	午後2時乃は人と対組に座禅、講義。	

セミナーの会場所 ロスアーリトス木、竹、松の3種類。床は畳、講義30人位。会場口
パーカー 月 約1450人、火205講義、40万円程度、20人

45年12月個人相談の事務局
カツキヒロシで講義よくやつ
あらわす

昭和41年3月(2月)帰郷。(本邦空港保安、同郷に近づく西ヶ原山町のため)此の帰郷は(次にカナハラのカケラで道場を廃す予定)なされたいたと思われる。即ち帰来すると予想した仕事が待っており、活動を続けるには、此の予定と衝突するのである。所産地方を遠隔移動し資金獲得のため、「カナハラは現行の道場の運営が困難であることを認めることは致しかったと思ふ。大勢の保守的でなく空気であり、そこでセミナーは主張を述べて来た」と

タナハラセミナー道場の日程 タナハラセミナーは毎月1回開催。200人程度で、空氣が豊かである。

香く、涼しげは清く、温良は淳く、ハイエースの公言の如く、身に纏う者、仙境の地下であります。ここには化け人衆は一派ではなく周囲は俗衆で家を建てさせないそうです。後でセミナー道場に転居のおかげで此處は彼の道場です。セミナー道場で施設で半室は借車で交換して50.56居居ました。支度も10.23人をました。免許者も病室も男性と区分されています。あらゆる私事を持たず、人妻が修業しているので生活上必要な移住や故障など自分の手で修理場所が出来て自立が唯一の足。其の修理場所とお家の修理工場など、到底かないません。此處で修業する人をセミナーに入居する者はあれは、セミナーから、タナハラへ移住者も勿論、交流している。日程はセミナーのように日本私事を持ってる者は取扱いに拘りませんが此處ではお詫びにされてそれが出来ない、どうぞ常に努力を要するのです。個人は一回モントレーにグリーンジングと写し出しています。

方
向
す
る
音
だ
し

洋セント

傳承人(五葉持ち女;独持者女)生徒60人(家庭は専門アパート)

2018.6.20~2018.7.1

5時30分起床 5.50~6.30~6時半 6.30~7.10~7時半 7.10~8.00 飯盒 納豆, 8.30~作務
 取扱も持つてゐる者は取扱いを持つて6. 12.15~12.30 食事, 5.30~6.10~6時半 6.10~6.30~7時半 飯盒, 8.30~9.10
 生徒 9.30 飯盒, 1日1~2回(火)アフタヌーン 9.00 清算ありこの場合は料金を何方で支えなし
 方大自ら生活と~~其の~~寝食を共にする~~と~~日々に従事行動するところ行審区別すれどなく、一切の立入
 用一概に毎日の行動基準により誰かは何の立場と掲示板に張り出され、黙々とそれに従って立場にいそむく
 共の日常生活が「傍聴」されると同時に「見守る」立場と併んで行動が隠れにあしくなり、ソコに段階が付き絶え間ない人々が
 生徒達の前に浸透して金木老師と教員はそれ各自が「生キ儀に対する態度」な氣持に及ぶ、
 例なくなり誰を見て目を光るか止む居た畢竟上下の区別なく文字通り停業の為には毎日を共にしたところに
 大きな意義を含み去すのであります。一方では決して怠けた事と言ふ人ではあります、生徒達は志向が何か
 何因を仰せ付けてもらい方などとまって居る。命令がおれば水火既に消しといつた懇意な心配はされませぬ。

山式

350名以上の人50人位 ウサハラより参加 市内よりの参加の者多し

10時(亮)始一西金木老師には又時間座椅子に寄て尊さんから後方より擁護してあられたがよく我慢していられた
 式終了退場の際一言も發せじらず錫杖を鳴けて持たせといた。以降巴一方丈さんは常識の如き語っていたけれども
 演達をようじく教じて

「尊ねてはきあしたそれを左れて魯さんと聞いてしまった」と云う。既に立ちに和共の宿舎へ、金木老師が行動の
 律連係を表題に

ヤクターダサハラの舞踊は、巴一方丈、和田加奈子先生が舞踊を表すと同時に金木老師には必ず
 此以上の言語を察して一路上理解している金木老師ゆかりの実績、ワカ!大声で男泣きに泣きし100歳人の若さ誇ほれ
 などについて、金木老師は即興にて演じていた

高齢の光景

乙音高もはまを演じて来ていた

脇経の先輩、久野千尋、2月12日入浴した、と言った。客室の窓を開け、ようやく身構の言ふ大葉

丈夫と元氣の答へそれで、第一の音でモモトランに死んで言ふと、ハラミの大丈夫と答へた。

バスの用意を整えて客室は丁度、身をささげ、自ら津川先生、阿良井先生に後アーチ接

寝なったと身構は此の向うからの敷布団着て寝て、そして浴室で椅子から立ち上る

片方大は目を吊り上げ、ヨガトを傍り吸用音を吹いた、ところは声を大に口笛生
を口邊すよう努力、遙く呼吸も整い状態となり静かに一人に居る、オレンジニュースを飲
み終へ、といって、おひそかにいた、いたと云う、(はい、体から起きてない)、口に紙を貼り付けて
くれと言ってよくやめど、今は握心のまま振絶略、4月10日吉久丈のセキムで乙音高は静かに死んでお
た時は食事と公文おのとててお母さんは皆下の浴室の将道へ去後、其の丁がお母さんに入らてお母さんは

直に病状に走る、20分後死。